

7 学識経験者からの助言と対応

(1) 学識経験者からの助言と対応

本業務では、平成 29 年度及び平成 30 年度、学識経験者からなる委員会を設置して、本業務の測定結果、得られたデータに対する統計解析、暑熱環境の予測手法などについて必要な助言を受けてきた。

令和元年は、昨年度までの暑熱環境測定に係わる調査等は終了したので、検討委員会は設置せず、委員会でのこれまでの助言などをふまえて実施してきた暑熱環境測定の実施状況等について、前年度までの委員会を構成していただいた学識経験者に報告して、助言等を求めた。

本年度（令和 2 年度）は、令和元年度と基本的に同様の内容での測定を行ったことから、前年度まで助言を頂いた学識経験者に助言を求めた。

助言を求めた学識経験者は以下の 7 名

足永 靖信	建築研究所環境研究グループ長
石丸 泰	環境情報科学センター調査研究室長
小野 雅司	国立環境研究所環境リスク・健康研究センター
日下 博幸	筑波大学計算科学研究センター教授
齋藤 宏之	労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所上席研究員
澤田 晋一	東京福祉大学・大学院教育学部教授
堀越 哲美	愛知産業大学学長

測定内容が概ね前年度からの継続であること、新型コロナウイルス感染防止のため集合しての会議設定が難しいことから、各学識経験者に本報告書 1 章から 6 章までの図表等を用いた測定の概要、さらに令和 3 年度の暑熱環境測定の計画について資料を提供し、助言を求めた。

資料については付録 DVD に収録した。

学識経験者からは

- ・令和 2 年度の暑熱環境測定の実施方法、結果については概ね妥当である。
- ・携帯型の精度評価、標準型との比較での補正についても妥当である。
- ・標準型での測定結果について、1 時間値の最大値や、1 分値の WBGT 閾値ごとの分布状況の解析については、測定地区の暑熱リスクの把握に有効であるとの評価があった。
- ・携帯型を用いて測定した結果から、令和 3 年度の情報提供に当たって、日陰、日なた、コンクリ、草地などの条件に応じて、標準型のデータに対する補正値を提供することについて

も異論はなかった。

- ・同じ日なたであっても「草地日なた」と「コンクリ日なた」の測定された WBGT 差についてその原因等をさらに調査すべきである。

- ・標準機測定地点に対する予測情報の提供のための予測プログラムの開発状況についても異論はなかった。

- ・令和 3 年度のオリンピック・パラリンピック期間での暑熱環境測定計画についても異論はなかった。

以上、令和 2 年度業務について特段の指摘は無かった。